

平成22年度事業報告及び収支決算

事業報告

(自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日)

昨年は、当会が発足をして60年、今年は、社団法人となってから60年目に当り、当初の予定より若干ずれ込んだが、60周年記念誌を発行することができ、昨年度来の60周年記念事業をすべて終了することができた。ご協力いただいた関係者の皆様に改めて御礼を申し上げる。

しかし、会計収支については、大規模なテナントの撤退等により、経費の節減に努めたにもかかわらず、単年度収支は大幅な赤字となり、次期繰越収支差額も大幅な減少となった。

このような状況の中でも、例年実施している事業のうち、会員を対象とするものについては計画どおり実施し、公益に関する事業については東日本大震災の被災者に対する寄付を追加して行った。

各事業の実施状況は、次のとおりである。

I 会 務

1 定期総会、役員会等の開催

(1) 定期総会 平成22年7月2日(金) 上野精養軒にて開催

野村会長の挨拶で始まり、都知事代理の佐藤広副知事、和田宗春都議会議長、小倉基都選挙管理委員会委員長より祝辞をいただいた。

引き続き長寿会員並びに叙勲受章会員それぞれに祝意を表し、記念品の贈呈を行った。

総会は野村会長が議長となり議事を進めた。

会務報告

議案第1号 平成21年度事業報告及び収支決算

議案第2号 平成22年度事業計画（案）及び収支予算（案）

議案第3号 新公益法人制度への対応について

議案第4号 職員に関する規則の改正について

以上の案件について、全員異議なく可決承認された。

以上で会議を終了、懇親会に移り、会員の親睦を図った。（参加人員243名）

（2）秋の大会 平成22年11月9日（火） 上野精養軒にて開催

最初に野村会長の挨拶で始まり、出席された都知事代理の吉川和夫東京都副知事、和田宗春都議会議長より祝辞をいただいた。

次に記念講演として、竹内誠江戸東京博物館館長から「幕末の江戸から学ぶ今の東京」と題しての講演があり、講演終了後、懇親会に移り会員の親睦を図った。（参加人員233名）

（3）役員会等の開催

会の重要な案件を審議し、事業の円滑な運営を図るため、役員会等を開催した。

理事会	4回	常任理事会	2回	常任役員会	9回
代議員会	3回	顧問相談役会	1回		

なお、平成23年3月22日の理事会において、「会費について」を改正し、平成24年度より会費免除会員を現行の会員歴10年以上で80歳以上という規程を、会員歴15年以上で年齢88歳以上に改めることとした。また現在会費を免除されている88歳未満の会員については、引き続き会費免除措置を継続することとし、同日開催した代議員会でも承認された。

また会費免除措置を継続された会員に対して、年会費相当額の寄付を募ることも承認された。

あわせて経費節減を図るため、来年度から理事長の報酬の1割減額、会員名簿発行を3年に1度とし、間の年は追補版のみの発行とすること、叙勲受章者に対する祝品の贈呈を廃止すること等を決定した。

2 会報及び会員名簿の発行

会員相互の交流・親睦に資するため、会員相互の消息、会の事業の運営状況の報告、会員からの情報提供や投稿を登載した会報を年6回発行、会員及び関係方面に配布した。

また、会員名簿については、9月1日現在の会員を基本に作成して、会員に配布した。

3 会員の慶弔

(1) 長寿会員に対する祝賀

喜寿、米寿、白寿を迎えられた会員を定期総会にお招きして記念品を贈り、その労をねぎらい、長寿を祝福した。

白寿 3名、米寿 22名、喜寿 76名 計 101名

なお、平成22年12月末日現在の会員のうち、平成23年中に88歳以上になる会員153名について、平成23年2月号の会報に氏名を掲載し長寿を祝した。

(2) 叙勲受章会員に対する祝賀

叙勲受章会員には、定期総会にお招きして、その栄誉を讃えて記念品を贈り、祝意を表した。

平成21年 秋 6名 平成22年 春 6名

(3) 物故会員に対する敬弔

物故された会員については、香典等を贈り弔意を表した。なお、会員及び家族の冠婚葬祭については、(株)都民互助会に団体加入し、割安な料金で利用できるよう便宜をはかった。

物故会員 68名

II 行事及び事業

1 施設見学会の実施

会員の見聞を広めるとともに、その健康の増進に資するため、春と秋に施設見学会を実施した。

春の施設見学会 平成22年5月19日(水) 東京のタワー巡り
(東京タワー、清澄庭園、浅草寺、東京スカイツリー)

参加人員 69名 (バス 2台)

秋の施設見学会 平成22年10月13日(水) 銚子・犬吠埼巡り
(銚子電鉄乗車、犬吠埼灯台、銚子ポートタワー)

参加人員 67名 (バス 2台)

2 新年賀詞交歓会及び新入会員歓迎会の実施

(1) 新年賀詞交歓会は、平成23年1月7日(金)に、本会会議室において開催し、新年を祝うとともに会員相互の健康を祝して親睦を図った。参加者33名。

(2) 新入会員歓迎会は、平成23年2月4日(金)に、本会会議室において開催。

前年中に新しく入会した会員をお招きし、野村会長の挨拶のあと沼田理事長から事業概要の説明があり、続いて常任役員と親睦を図った。

参加新入会員 11名

3 相談事業の実施

会員及び家族を対象として、毎月、法律相談及び税務相談を実施した。

法律相談 相談員 弁護士 坂井 利夫氏 山下 一雄氏

相談件数 12件

税務相談 相談員 税理士 大西萬里子氏

相談件数 4件

4 その他交友会主催事業の実施

会員の交流と趣味・知識の向上に資するため、次の事業を実施した。

- ①健康講座 平成23年2月8日(火) 参加者 35名
講 師 東京都健康長寿医療センター
センター長 井藤英喜先生
テーマ「糖尿病と言われたら一予防と治療のコツ」
場 所 本会会議室
- ②パソコン教室 初級者コース
平成22年7月12日(月)、13日(火) 参加者 5名
指 導 (株)テクノクラフトインターショナルに委託
場 所 本会会議室
- ③麻雀大会 平成22年7月16日(金) 参加者20名
場 所 本会会議室
- ④囲碁大会 平成22年9月10日(金) 参加者24名
平成23年1月21日(金) 参加者24名
各 回 A B Cの3クラスに分けて実施
場 所 本会会議室
- ⑤ゴルフ大会
第19回 平成22年6月10日(木) 参加者 37名
第20回 平成22年10月20日(水) 参加者 40名
大宮国際カントリークラブで開催

5 各種趣味の会（同好会、研究会）への支援、活動の場の提供

会員の自主的な趣味の会として、次のようなサークルが活動している。

- 囲 碁 4～5グループが毎月利用
短 歌 コスモス短歌会所属の三枝英夫氏の指導により隔月に開催
俳 句 3つのグループの会があり、それぞれ毎月開催

謡 曲 観世流、宝生流の2グループがそれぞれ毎月開催
小 唄 扇派家元の扇よし和師匠の指導により毎月2回開催
書 道 竹塾グループが毎週利用
麻 雀 3～4グループが随時利用
その他 複数の研究会があり、それぞれ毎月開催
なお、1年間の会館施設利用実績は延べ209件(1672名)であった。

Ⅲ 公益事業

1 社会福祉事業等への助成

本会の社団法人であることの公益性に鑑み、公益事業の一環として公益団体に寄付を行った。

本年度は日本赤十字社東京都支部に対し、社資を含めて13万円、東京都共同募金会、東京都社会福祉協議会、東京善意銀行、東京都暴力団追放都民センターにそれぞれ10万円、(財)東京都結核予防会に2万円を寄付した。

その後、平成23年3月11日に発生した地震と津波による東日本大震災の被災者に対し、日本赤十字社東京都支部を通じ、追加して10万円の寄付を行った。

2 講演会の開催及び団体に対する後援

(1) 講演会の開催

平成22年11月9日(火) 上野精養軒

テーマ 「幕末の江戸から学ぶ今の東京」

講 師 東京都江戸東京博物館館長 竹内誠氏

(2) 財団法人東京都弘済会主催の健康増進行事関連事業に対し後援・協力をを行った。

IV 交友会会館の維持管理及び事務事業の執行

- 1 会館の施設管理については、テナント入室のための間仕切り工事・室内改修工事等のほか、建物や設備の老朽化による改修工事など、重点的に整備を行った。

公社住宅との一体的管理の必要性から住宅供給公社及び千代田区と協力・連携して施設の安全性・快適性の確保に努めた。

また、当ビルの建替え問題を検討するため、東京都住宅供給公社、千代田区との三者で「昌平橋ビルあり方検討会の設置及び運営」についての協定を平成22年10月1日に締結、事業性について検討する資料の作成をコンサルタント会社に委託し、計9回の検討会を実施した。

- 2 八大都市退職職員団体連絡協議会については、今年度の当番団体として設営を担当し、アジュール竹芝を会場として開催、各団体と友好関係を維持するとともに、公益法人改革等の情報交換や協議を行った。

開催団体 当会

開催日 平成22年10月21日(木)～22日(金)

出席団体 札幌市、川崎市、横浜市、名古屋市、京都市、
神戸市、福岡市

- 3 4月に大規模テナントが撤退したため、テナントの確保に努めた結果、10月にはその半分についてテナントを確保したほか、空き室の減少に努めた。

賃貸料の滞納については地方裁判所への訴えを行うなど、その対応に努めている。

- 4 事務事業の適正合理化を進め、また、公益法人改革についても、平成24年度に定款の改正を行うべく準備を進めている。
- 5 ホームページの設営

創立60周年事業の一環として平成21年10月に開設した当会のホームページについて、内容の更新充実を行った。

V. 会員の状況

平成23年3月末の80歳以上の長寿会員数は672名で、初めて会員総数1,988名の3分の1を超えた。

平成21年度末 普通会員 2,050名 特別会員 27法人

平成22年度

新入会員 46名

退会会員 108名(うち死亡退会 68名)

平成22年度末 普通会員 1,988名 特別会員 26法人

(参考)年齢別会員数

(平成23年3月31日現在)

年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数	年齢	人数
50		60	10	70	85	80	77	90	22	100	3
51		61	23	71	87	81	88	91	15	101	2
52		62	43	72	85	82	79	92	10	102	
53		63	44	73	80	83	88	93	7	103	
54		64	60	74	58	84	72	94	10	104	
55		65	53	75	73	85	66	95	14	105	
56		66	51	76	90	86	27	96	4	106	
57	1	67	62	77	85	87	25	97	4	107	1
58	1	68	87	78	73	88	28	98	5		
59	3	69	67	79	95	89	21	99	4	計	6
計	5	計	500	計	811	計	571	計	95	合計	1,988

平成 22 年度 収支決算書

(自 平成 22 年 4 月 1 日 至 平成 23 年 3 月 31 日)

I 事業活動収支の部 (単位：円)

大・中科目	予算減額(a)	決算額(b)	差額 (a-b)
1 事業活動収入	66,314,000	61,428,455	4,885,545
(1)特定財産運用収入	655,000	731,791	△76,791
(2)会費収入	9,004,000	8,107,000	897,000
(3)事業収入	46,840,000	43,934,150	2,905,850
(4)寄付金収入	400,000	335,000	65,000
(5)雑収入	9,415,000	8,135,514	1,279,486
(6)有価証券売却益	0	185,000	△185,000
2 事業活動支出	79,333,000	67,324,959	12,008,041
(1)事業費	53,910,000	46,114,146	7,795,854
(2)管理費	25,423,000	21,210,813	4,212,187
事業活動収支差額	△13,019,000	△5,896,504	△7,122,486

II 投資活動収支の部

1 投資活動収入	0	0	0
(1)積立資産取崩収入	0	0	0
2 事業活動支出	6,100,000	6,100,000	0
(1) 特定資産取得支出	6,100,000	6,100,000	0
投資活動収支差額	△6,100,000	△6,100,000	0

III 財務活動収支の部

1 財務活動収入	0	0	0
2 財務活動支出	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0

IV 予備費支出

1 予備費支出	1,000,000	100,000	900,000
---------	-----------	---------	---------

当期収支差額	△20,119,000	△11,996,504	△8,122,496
前繰越収支差額	13,637,000	49,132,460	△35,495,460
次期繰越収支差額	△6,482,000	37,135,956	△43,617,956

(注) 1 この収支決算書は「公益法人会計における内部管理事項について」(平成17年3月23日公益法人等の指導監督に関する関係省庁連絡会議幹事会申し合わせ)に示された様式により作成している。

2 予備費の支出は寄付金支出に充当したものであり、当期収支差額の算出においては合算していない。